

学位（博士）論文要旨

看護学専攻 応用看護学分野 公衆衛生看護学教育研究領域	学籍番号 1933003 氏 名 森本典子
論文題目	ALSのセルフヘルプグループと保健所保健師との協働による地域志向性のある活動の振り返り項目の開発
Keywords: ALS、セルフヘルプグループ（SHG）、保健所保健師、協働、振り返り項目 研究目的：ALSのSHGと保健所保健師が協働して地域志向性のある活動を振り返るための『振り返り項目』を作成することを目的とした。 研究Ⅰ：文献検討及び概念分析 1. 目的：「地域志向性のある活動を展開するSHGの機能」について文献検討と概念分析を行い、SHGの機能と構成概念及びその定義を明確にすること。 2. 方法：Rodgersの手法を用い、先行要件、属性、帰結の3つの枠組みで質的に分析した。 3. 結果：先行要件（SHGの機能に影響する要因）4カテゴリー、属性（SHGの機能の特性）5カテゴリー、帰結（SHGの機能に期待される成果）3カテゴリーが抽出され、「地域志向性のある活動を展開するSHGの機能」の構成概念とその定義を明らかにした。 研究Ⅱ：ALSのSHGにおける地域志向性のある活動の明確化 1. 目的：「地域志向性のある活動を展開するSHGの機能」について情報収集するインタビューの実施と概念分析から得られた情報を基に、その実相を明らかにし、『振り返り項目』（案）を作成すること。 2. 対象者：日本ALS協会6支部の主要な会員14名と支部の活動に関わっている保健所保健師 3名。 3. 調査方法：インタビューガイドを用いた半構造化面接でインタビュー調査を行った。インタビュー内容から、「地域志向性のある活動」に関連する活動項目を抽出した。複数の分析者で、コードの集約を行い、『振り返り項目』とするサブカテゴリーを抽出した。 4. 結果：抽出したサブカテゴリーを集約し、4つの枠組「活動の基盤」「支部内での活動」「外部からの働きかけ」及び「地域に向けた活動」と90のサブカテゴリーを抽出した。さらに、インタビュー調査を依頼した支部会員、保健所保健師、研究者等で、50のサブカテゴリーに集約し、これを地域志向性のある活動の実相とし、かつ『振り返り項目』（案）とした。 研究Ⅲ：『振り返り項目』（案）の適切性の検討 1. 目的：『振り返り項目』（案）を用いて作成した自記式質問紙調査を行い、結果を量的・質的に分析し、『振り返り項目』を精査すること。 2. 対象者：日本ALS協会の支部と支部が推薦した難病担当の保健所保健師。 3. 調査方法：無記名自記式質問紙調査により、「現在の活動状況」、「項目内容の適切性」について回答を求め、量的・質的に検討を行った。 4. 結果：調査票の回収数（率）は、26支部（65.0%）、支部に推薦された保健所保健師20人（51.3%）であった。「現在の活動状況」の支部の回答の項目間相関分析から、意味内容の似通った6項目を除外した。「項目内容の適切性」は、支部、保健師ともに「あまり適切でない」と「全く適切でない」の回答が24%以下であり、『振り返り項目』（案）の適切性が確認できた。これらの結果から、最終的に44項目から構成される『振り返り項目』を提示した。 結論と今後の課題 『振り返り項目』を作成し、その項目の適切性が確認できた。これを活用することで、ALSのSHGが、支援者と共に地域志向性のある活動を振り返ることが可能となる。今後、項目内容の精緻化を図り、ツールとしての活用を提言していきたい。	

指導教員氏名（自署）：.....平野かよ子.....

2023年3月6日

宮崎県立看護大学大学院
研究科長

様

学位論文（博士）審査委員

氏名（自署）平野かよ子
氏名（自署）田中美智子
氏名（自署）久野暢子
氏名（自署）中尾裕え

学位論文審査及び最終試験の結果報告書

このたび、審査委員会として、学位論文（博士）の審査及び最終試験を終了したので、その結果について下記のとおり報告します。

記

学生氏名 森本 典子		学籍番号 1933003	
看護学専攻 応用看護学分野		指導教員氏名 平野 かよ子	
成績 評価	学位 論文	最終 試験	合 格
論文 題目	ALS のセルフヘルプグループと保健所保健師との協働による地域志向性のある活動の振り返り項目の開発		
審 査 要 旨	本研究では、ALS の支部（SHG）が地域志向性のある活動を活性化できることを目標に、SHG と地域の支援者が協働して地域志向性のある活動を振り返り、評価するための項目案を作成することを目的とした。本研究は3部構成であり、研究1では地域志向性のある活動を行う SHG の文献検討及び概念分析を行い、SHG が行う地域志向性のある活動を定義した。研究1を踏まえ、研究2において SHG に対して地域志向性のある活動についてインタビュー調査を実施し、ALS の SHG が行う地域志向性のある活動の内容（と機能）を整理した。さらに、得られた結果から SHG の地域志向性のある活動を評価する振り返り項目案を作成した。研究3で、全国の ALS 支部と支援者である保健所保健師を対象とした自記式質問紙調査により、振り返り項目案の適切性を検証した。本論文は、予備審査においては3つで構成される研究間の関連性を明記にすることや、論文の基盤とするフレイレの理論に基づいた考察を充実させること、研究の限界、看護学への貢献等をより明確に記載することが指摘された。本審査においては看護学への貢献につながる研究全体の枠組みと各研究の内容を明記すること、自記式質問紙調査結果の統計的分析結果の表示方法を再考し、全体的に考察を充実することが指摘された。		

審査要旨	再審査において、用語の使い方を含めた論旨の一貫性の最終的な見直し、統計結果から結論づける上での根拠のある論述、表現の最終検討、文献引用の整理などの指摘があった。 再々審査において再審査等において指摘された論旨の一貫性を見直し、統計結果から結論づける上での根拠のある論述、考察の充実、表現の最終検討、文献引用の整理については加筆・修正がなされ、本研究において明らかにされた振り返り項目を研究成果として明示していることを確認した。ALS の SHG の地域志向性のある活動の実相の明確化と、支援者と協働してその活動を評価する振り返り項目が提示できたという点において、価値ある研究と認め、当該審査委員会は、学位論文および最終試験を合格とし、博士（看護学）の学位を授与するに値すると判断した。
-------------	--